

ネットワーク全労生 1月25日号

年頭のご挨拶

全国労働組合生産性会議 議長

落合清四

(UIゼンセン同盟・会長)

新年明けましておめでとうございます。

昨年は「偽り」の言葉に象徴されたように政治、経済、社会の分野でタガが緩み、不信と不安を誘う事柄が多く見られました。労働の分野でも、ワーキングプアー、非正規雇用、過重労働・過労死、そして格差社会という言葉が踊りました。この淵源は「失われた15年」のなかでグローバル化の波によって信頼と安心の良好な雇用慣行が崩されてきたことにあるように思います。

効率と自己責任を旨とする雇用形態と雇用管理制度の流れが職場共同体意識、愛社精神を希薄化し、そこで働く人たちを孤立させていく状況をつくり出しています。壊れた職場共同体の中では自らの居場所、自己の存在意義が喪失し、不信と不安が醸成され精神が壊れる病に至る現象が散見されています。

生産性運動を真に発展させ、その3原則を確立していくためには、運動を展開する職場が健全であることが大前提であると思います。すなわち、良き職場共同体の中でしか生産性の精神は呼び起こすことができなく、相互作用することもできないからです。なぜなら生産性運動は個別生産性が視点ではなく、ひとえにコミュニケーションを重視した集団的な生産性を視点にしているからです。

今、労働運動のキーワードは「格差社会」と「ワーク・ライフ・バランス」です。この対立する課題を克服、達成するためにも、生産性運動の原点である健全な職場共同体を再構築する運動を提起したく思います。

本年も全労生の活動に対し、一層のご指導、ご支援をお願い申し上げます。